

第 34 回日本高血圧学会総会 プレスセミナーのご案内
— 特定非営利活動法人 日本高血圧学会 —

趣旨

第 34 回日本高血圧学会総会（平成 23 年 10 月 20-22 日、宇都宮市）のトピックスの中で、家庭血圧を高血圧診療の指標にした世界初の臨床試験、減塩の是非に対する国際論争、大震災時の血圧管理など、メディアの方々に特に注目していただきたい項目について発表者が解説し、高血圧学会総会の内容についての理解をさらに深めてもらうための企画です。多くの方に出席していただきたいと思えます。

日時 平成 23 年 10 月 22 日（土）13:00～14:00

場所 栃木総合文化センター ギャラリー棟 3 階 第 2 会議室（D 会場）

〒320-8530 栃木県宇都宮市本町 1-8

TEL: 028-643-1000〔代表〕 FAX: 028-643-1012

プログラム

1. 島田和幸（自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門 教授）
第 34 回日本高血圧学会学術大会 大会長挨拶（5 分）
日本高血圧学会理事長

2. 家庭血圧 HOMED-BP（15 分）
今井 潤（東北大学大学院薬学研究科医薬開発構想寄附講座 教授）
日本高血圧学会理事

2001 年より開始された HOMED-BP 研究は、2010 年 4 月に追跡終了となり Late Breaking Session において主結果及び、家庭血圧降圧レベルと心血管病予後に関する 2 題の報告をいたしました。本研究の成果は、家庭血圧の臨床高血圧における手法としての重要性を世界で初めて、大規模介入試験の結果として示し得るものになると予想致しております。現在国際誌に投稿中です。

3. 減塩論争（15 分）
上島弘嗣（滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授）
日本高血圧学会 名誉会員

食塩摂取量が多い集団や個人において血圧値が高いことは、高度に標準化された質の高い国際共同研究、INTERSALT において示されました。今回のセミナーでは血圧値と循環器疾患発症リスク「食塩摂取量の多いほど総死亡率が低いとした Staessen らの JAMA に最近公表された観察研究」での減塩の循環器疾患に対する否定的な結果に対し、誤った解析による誤った結論であると考え、この論争について解説いたします。わが国では、1965 年に年齢調整脳卒中死亡率が頂点に達し、1990 年にかけて 80%以上の死亡率の低下をみました。こ

の間、国民の血圧水準も脳卒中死亡率と同じ推移を示しました。多くの保健医療従者が減塩運動、高血圧対策に取り組み、世界1の脳卒中死亡率を克服してきた歴史があります。わが国の循環器疾患対策の柱の一つとして、国民の減塩を如何に推し進めて行くかは重要な公衆衛生的課題であると考えます。

4. 震災と血圧 (15分)

苅尾七臣 (自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門 教授)
日本高血圧学会 幹事

大きな被害を受けた宮城県南三陸町の災害医療コーディネーターである、西澤匡史先生(現 公立南三陸診療所 所長)の要請を受け、避難所に血圧測定装置を常設し、被災者の血圧管理のサポートを現在も継続して行っています。そこで測定された血圧値を、個別に医療機関で把握できるような遠隔血圧管理モニタリングシステムを構築しました。単一の医療機関だけでなく、被災地の医療機関をサポートする遠方の医療機関や医師でも、被災者の血圧値を管理することができます。私たちの取り組んだ震災時における血圧管理についてお話いたします。

5. 質疑応答 (10分)

2011年10月吉日

出席連絡用 FAX 送信用紙

FAX : 03-6081-9787

日本高血圧府学会 事務局 行

第34回日本高血圧学会総会 プレスセミナー 10月22日 宇都宮

ご出席

ご欠席

資料のみ送付希望

(いずれかにレ印をお願いいたします)

貴社名

新聞 雑誌 テレビ ラジオ

媒体名

ご部署

ご芳名

電話番号

FAX

何かご希望やご要望などございましたら、ご記入ください。